

地域医療総合支援センターよりお知らせ

日頃より、当院の地域医療連携にご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

2020年7月1日より地域医療連携室は「地域医療総合支援センター」として稼働をはじめました。地域の先生方には、当院を便利にご利用いただけるように、患者さまのご紹介や検査・治療後の相互連携という点でさらに試行錯誤を重ねながら、よりよい地域医療を共に作っていきたいと思っております。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

患者さまのご紹介について

紹介状(診療情報提供書)に、診療・検査ご希望日時・保険情報を記入の上、下記までFAXしてください。

医師の指定がある場合は、紹介状に記入ください。入院依頼の場合は、お部屋タイプも記入ください。

1

診療情報提供書はホームページよりダウンロードいただけます。

当院のホームページのトップページより、

①【医療関係者の方へ】をクリック

②【紹介・診療・検査予約】をクリック

③ご利用手順の中にある右記のボタンをクリックし、PDFを印刷ください。

[診療情報提供書](#)

[糖尿病患者様専用診療情報提供書](#)

2

FAXにてお返事いたします。

入院依頼および病状等により多少お時間をいただく場合がございます。

3

患者さまへご来院日時に、紹介状(診療情報提供書)と保険証をご持参下さいようお伝えください。

地域医療総合支援センター

**TEL.078-681-6250
FAX.078-686-1802**

[月～金曜日] 9:00～18:00 [土曜日] 9:00～17:00 [日・祝日] 休み

編集後記

2019年末に最初の患者が報告されてから、グローバル時代の現在は瞬く間に世界的パンデミックが拡がり、現在もなお私たちの生活そのものに大きな影響を与えています。昨年猛威を振るったデルタ株より、現在はほぼオミクロン株 BA.2 に置き換わり、ゴールデンウィーク頃より国の感染対策の規制が緩和され、さらなる感染拡大が危惧されましたが、一定程度の感染者増加にとどまっています。

当院でも4床のコロナ病床と24時間体制の発熱外来を敷いてきました。4月より内科は総合内科・糖尿病リウマチ内科・循環器内科・消化器内科として独立し、また救急診療に関しては救急総合診療科としてさらなる専門性をすすめております。今後は皆さまの生活同様、診療そのものも "with CORONA" のスタンスをとりつつ、急性期診療を中心に地域根ざした病院として、患者さまそして周辺の開業医の先生方に必要とされる病院を目指していきたいと思います。



副院長
地域医療総合支援センター センター長
西岡 昭彦 Akihiko Nishioka

兵庫医科大学卒（昭和57年）
日本外科学会専門医
・日本消化器外科学会認定医
・日本消化器内視鏡学会専門医
・日本内視鏡外科学会技術認定医
・近畿外科学会評議委員
・兵庫医科大学臨床教育教授
・兵庫医科大学第二外科講座非常勤講師
・マンモグラフィー読影認定医



医療法人社団 顕鐘会
神戸百年記念病院

〒652-0855 神戸市兵庫区御崎町1-9-1
<https://www.kobe-century-mh.or.jp>
TEL.078-681-6111 (代表)



地域医療機関向け広報誌 ジェネラリンク **GENERALINK**



総合病院の総合(GENERAL)と、連携(LINK)を組み合わせた造語になります。私たち神戸百年記念病院は、「地域になくてはならない病院になる」という理念のもと、地域の医療を共に支えるために、相互連携していきたいと強い想いを込めて作成しました。

2022.06
02

救急総合診療科特集

**総合診療医(ホスピタリスト)が関わることで
シームレスな医療連携を構築し地域医療に貢献します。**



救急総合診療科 部長
安田 考志

**腎臓疾患のスペシャリストとして
腹膜透析、シャントトラブル、糖尿病足病変など
幅広く受け入れ対応します。**



医療法人社団 顕鐘会
神戸百年記念病院

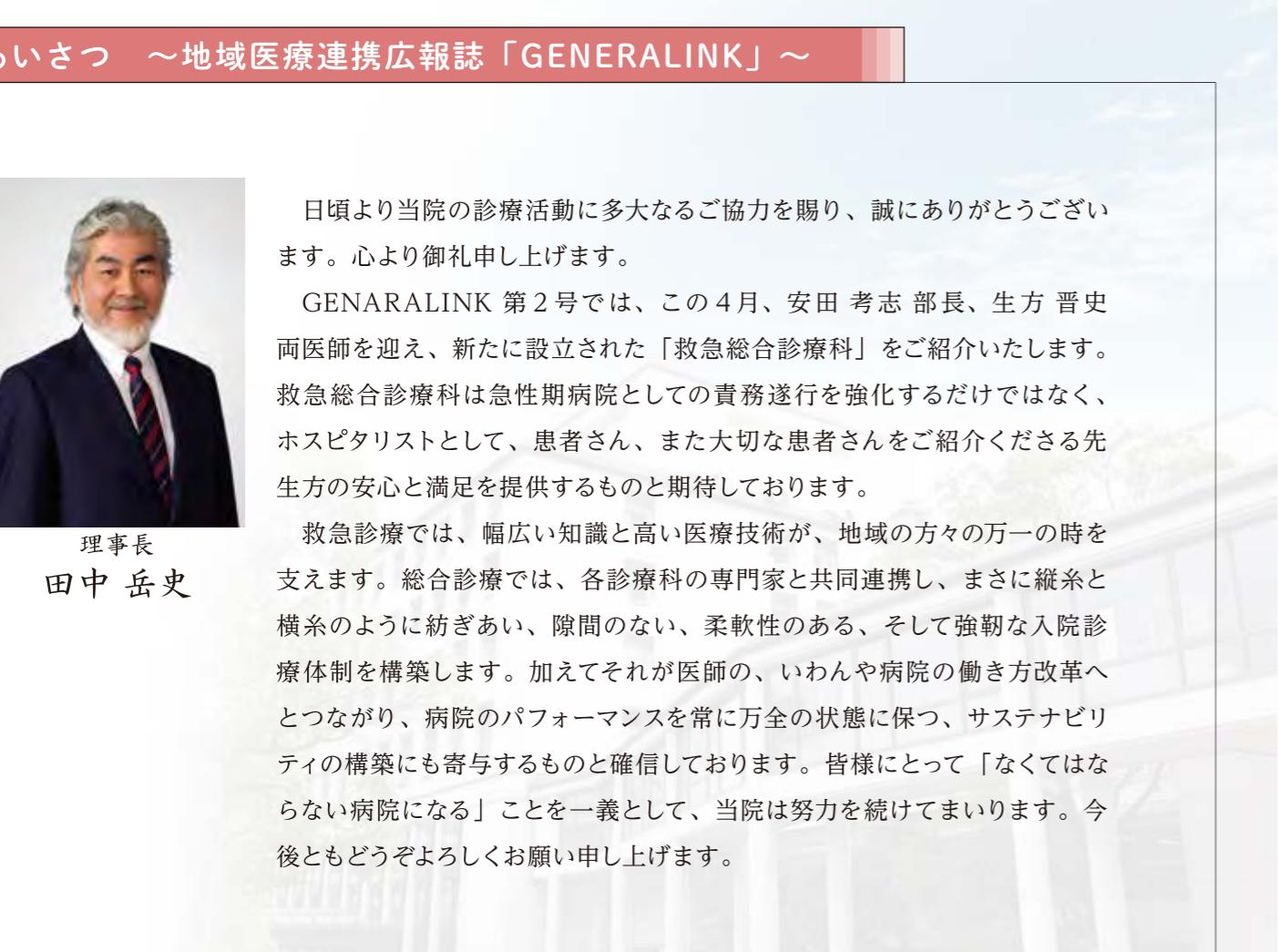


理事長
田中 岳史

日頃より当院の診療活動に多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

GENARALINK 第2号では、この4月、安田 考志 部長、生方 晋史 両医師を迎える新たに設立された「救急総合診療科」をご紹介いたします。救急総合診療科は急性期病院としての責務遂行を強化するだけではなく、ホスピタリストとして、患者さん、また大切な患者さんを紹介くださる先生方の安心と満足を提供するものと期待しております。

救急診療では、幅広い知識と高い医療技術が、地域の方々の万一の時を支えます。総合診療では、各診療科の専門家と共同連携し、まさに縦糸と横糸のように紡ぎあい、隙間のない、柔軟性のある、そして強靭な入院診療体制を構築します。加えてそれが医師の、いわんや病院の働き方改革へつながり、病院のパフォーマンスを常に万全の状態に保つ、サステナビリティの構築にも寄与するものと確信しております。皆様にとって「なくてはならない病院になる」ことを一義として、当院は努力を続けてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



腎臓内科領域の疾患

Medical cooperation

腹膜透析・シャントトラブル・糖尿病足病変にも対応します！



▼シャント手術（内シャント）

自己血管内シャント（AVF）が対応可能です。

▼シャントトラブル

シャント狭窄、閉塞、血管瘤、静脈高血圧、スチール症候群、感染など状況にあわせ対応します。



日本では血液透析を提供する施設が充実している一方で、腹膜透析を提供できる医療機関が限られているのが現状です。

当院は、腹膜透析を実施できる医療機関です。

腹膜透析の際は、透析用のカテーテルをお腹の中に留置する手術が必要です。自己管理がしっかりできるようになれば、通院回数が少なく、社会復帰も比較的容易です。腹膜透析に関して気になることがあればご相談ください。



かいよう
足潰瘍や足壊疽などの重大な病変（糖尿病足病変）に進行してしまう前の早期発見、早期治療が重要です。

- 糖尿病神経障害
- 血流障害
- 免疫力の低下



総合診療科を超えた



病院総合医＝ホスピタリスト 育成を目指す

救急総合診療科部長 安田 考志

4月から神戸百年記念病院の救急総合診療科に赴任しました安田です。

これまで培った経験から、「サブスペシャリストな領域をもつ総合診療医＝ホスピタリスト」を育成し、シームレスな医療連携を目指しています。

地域のクリニックの先生方が安心して患者さんを紹介いただけるように、病院内の体制の構築に努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



医師としてのスタートは泌尿器科

現在は救急総合診療科を任せていますが、大学卒業後は出身地の京都の大学病院の泌尿器科に入局し、さまざまな経験を積みました。

研修医時代に築いたスキル

研修医2年目は、泌尿器科の患者さんが非常に多い病院で、救急、書類作成、病棟指示、オンコールなど、研修医ではなく一医者として365日24時間任務に励みました。そのなかでも手術は年間1,000件くらいのうち、半数を執刀、2年目の医師には難しいとされる症例も経験し、この1年間でいぶん鍛えられました。

3年目に赴任した病院では、1週間のうちフリーになれる曜日は丸1日、外科系救急当番を担当。三次救命病院でしたので、三次救命医療のすごさを経験しました。

腎臓疾患のスペシャリストへ

次に赴任した病院では、主に透析導入や透析に関わる手術、急性血液浄化、集中治療でおこなうような血漿交換なども担当し、ピーク時は大学病院を上回る件数をおこないました。さらに、ICUの設計や医療機器の選定とレイアウトを考える機会を得て、人工呼吸などにも携わることができました。当時から「いかに透析に至らせないか」が非常に重要になってきていたので、腎臓内科領域の専門医を独学で取得しました。

足病変と感染症、幅広い診療が可能に

透析患者さんには足病変がとても多いため、共同研究で早期発見のスクリーニング法を見つけ学会で発表、血管外科の先生方もつながることができました。そして、スペシャ

リストによる外来を作り、たくさんの患者さんに来ていただきました。足病変に関しては、専門病院が少ないので強みになっていたと思います。さらに、集中治療での重症患者の大半が重症感染症だったため、その診療に携わることで感染症領域に関しても臨床経験や知識が深まり、若い先生に教える環境も得ることができました。感染症は私の中でプライオリティが高いもののひとつになっています。

日々の臨床経験が「臨床推論」能力向上へ

腎臓透析は何が起こるかわかりませんので、誰でも対応できる領域ではありません。すると必然的に私たちが、透析患者さんの心不全、不明熱、がんなどを診断していくことになり、おのずと総合診療の能力が鍛えられ、今まで言う「臨床推論」につながってきました。

総合診療科の立ち上げに携わる

2010年代に総合診療のニーズが増え、当時の全入院患者さんのDPCデータからその重要性を分析しました。その結果、総合診療科を立ち上げることになり、総合診療医の先生を回って教えを請いながら、講演会活動をたくさんおこないました。多くのスーパーマンを呼び「病院名+総合診療」というキーワードを覚えていただくことと並行し、開業医の先生方に総合診療科のニーズを理解していただけよう努めました。すると、開業医の先生たちは「困ったらあの病院へ」ということになり、総合診療科が入院を受けるというかたちの流れを作り、今や総合診療科は「なくてはならない科」になっています。しかし、これだけでは私が理想とする総合診療科とは、少し方向が違っています。私たちは、総合診療を目指す若い医師に背中を見せる、パイオニアになるべきと考えています。

当院における救急総合診療科の役割



“ホスピタリストプログラム”の準備

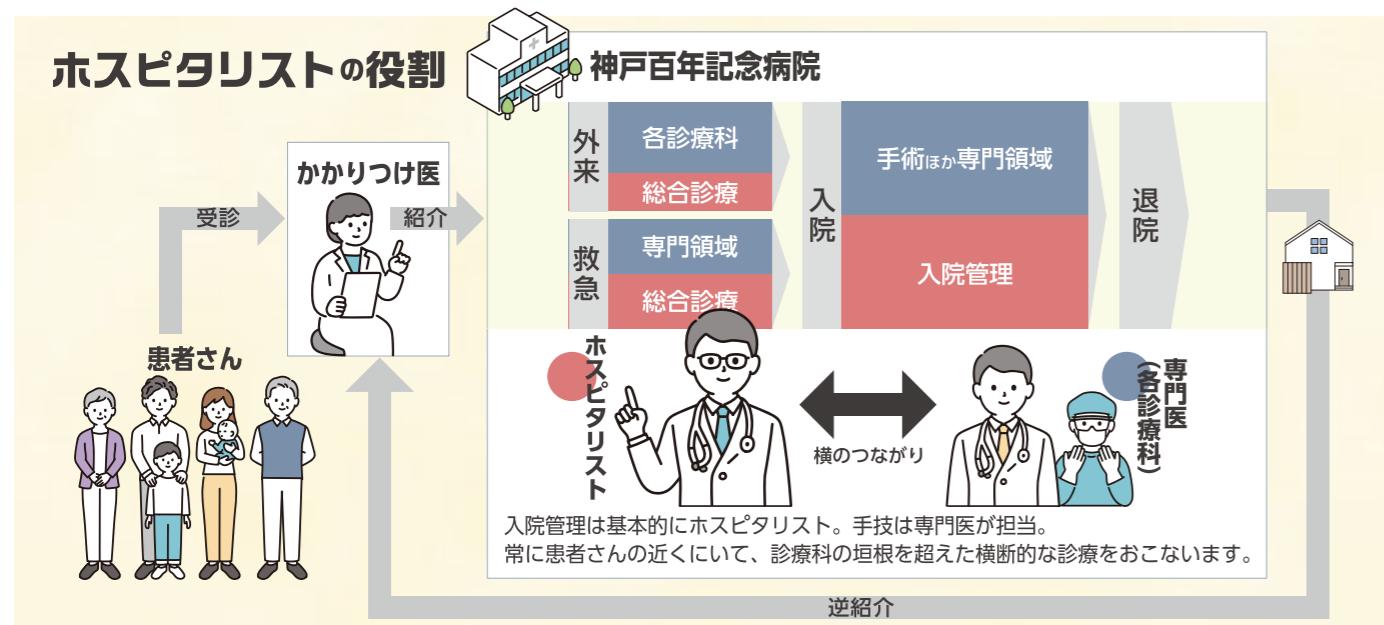
研修医や3年目以降のレジデントがここで受ける総合診療の基幹プログラムと、その上にある病院総合診療のプログラム、これが「ホスピタリストプログラム」です。この実現を目指して準備をしています。こうした病院は現在、兵庫県には5病院だけです。神戸市内には3病院ありますが、市中病院で総合診療を看板にできるのは、当院だけです。

研修医たちには選択肢は一つしかない、総合診療が活発になれば、研修医、医学生が必然的に集まっています。

診療科の“横のつながり”を強化

多くの診療科がある病院には、いわゆる「専門家集団」はそろっています。しかし、医師の仕事の多くは縦串です。

たとえば看護師さんは、患者を中心につなぎながら、各診療科と連携して診療を行っています。診療科に関わらず、「この患者さんは今こういう状態にある。では自分たちは何をすれば良いか」という目線で患者さんに接します。でも医師は「診療科」という縦方向で患者さんを診ます。縦と横方向が違うのに業務を一緒にしている、これがそもそもおかしいのです。



「三方良し」な医療を提供

私たちは、朝8時40分くらいには病棟へ行って、看護師さんの申し送りを聞きます。問題がある患者さんを把握し、看護師さんたちがつくる主治医への申し送り一覧表から、その日の役割を決めます。主治医ではないけれども、患者さんのところへ行き検査もして解決に導くような処方を出し、感染症なら午前中には抗生素投与が始まる。

患者さん、スタッフ、主治医の「三方良し」な医療を提供したい、それを実現するためにここにいます。

整形科病棟からはじめています

モデル病棟として、まずは整形科病棟はじめました。私たちが入って患者さんの全身状態管理を始めたところ、できめんに効果が出ました。

次のステップは、患者さんの安心安全な療養です。例えばより良い睡眠の提供として、不眠時指示や血糖の管理法などを各科の専門の先生と相談しながら行い病棟内完結を目指していきます。この体制を構築することにより、看護師さんの残業時間や患者さんの平均在院日数が確実に減り、さらには病院経営が安定し質の高い医療を提供することが可能となります。



病院の大きな役割を担う“ホスピタリスト”

今のところホスピタリストが成功しているのは大規模病院ですが、本当は中規模病院こそホスピタリストが必要なのです。目指すのは「一病棟に一人のホスピタリスト」。何でも頼んで良い、その結果として病院が上手く回っていく、これを実現するイノベーターでありたいと思っています。

そのため、サブスペシャリティをきちんと持った上でこれをやる「一流の総合診療医」を育成しています。例えば外科のことは何でもできるけれど総合診療もやりたい、もう少し広く見たい、だからホスピタリストになりたいという医師は、大歓迎です。今までの経験からある程度のエキスパートになり、磨いてきたものを有効に使う、そうでなければ輝けません。時代のニーズである働き方改革、看護師教育、いわゆる時短勤務を支えていくのも、ホスピタリストなのです。

救急総合診療科 / 救急センター

救急総合診療科 部長 安田 考志 (やすだ たかし)

専門 内科全般、泌尿器科一般手技、腎生検、シャント造設、腹膜透析カテーテル留置、アフェレシス全般、集中治療における急性血液浄化、人工呼吸管理、フットケア・フットウェアおよび足病関連外来

資格 医学博士、日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本アフェレシス学会認定血漿交換療法専門医、日本病院総合診療医学会認定医、日本集中治療医学会ICD

略歴 平成12年 高知大学医学部医学科卒業
平成12年 京都府立医科大学附属病院 泌尿器科研修医
平成13年 社会医療法人同心会古賀総合病院 泌尿器科研修医
平成14年 第二岡本総合病院泌尿器科
平成15年 パナソニック健康保険組合 松下記念病院 腎不全科副部長
平成21年 京都府立医科大学大学院 泌尿器外科学 専攻修了
平成21年 社会福祉法人京都社会事業財団 西陣病院 泌尿器科
平成21年 パナソニック健康保険組合 松下記念病院 腎不全科主任
平成27年 パナソニック健康保険組合 松下記念病院 腎不全科副部長
平成29年 パナソニック健康保険組合 松下記念病院 腎不全科部長
平成30年 パナソニック健康保険組合 松下記念病院 足病診療科 部長兼任
令和4年 神戸百年記念病院 救急総合診療科 部長



生方 晋史 (うぶかた しんじ)

専門 総合診療科、救急科

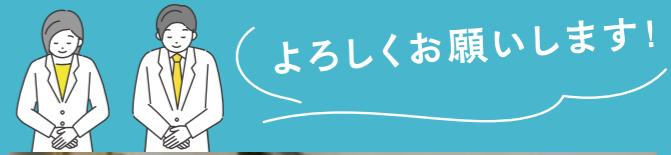
資格 日本国際学会認定内科医
日本救急医学会専門医

略歴 平成24年 昭和大学医学部卒業
平成24年 今村病院 初期研修
平成26年 浦添総合病院 救急集中治療部後期研修
平成28年 市立奈良病院 総合診療科後期研修
平成29年 市立奈良病院 総合診療科スタッフ
令和1年 阪神中央病院内科・総合診療科医長
令和4年 神戸百年記念病院 救急総合診療科



新任医師紹介

— Doctor introduction —



外科

中島 幸一 (なかじま こういち)

専門 消化器外科、ヘルニア

略歴 平成2年 兵庫医科大学卒業
平成2年 兵庫県立淡路病院 研修医
平成4年 温泉町国民健康保険診療所 所長
平成7年 兵庫県立淡路病院 外科医長
平成9年 公立浜坂病院 内科医長
平成10年 千種町国民健康保険診療所 所長
平成11年 千種町国民健康保険診療所 所長
平成17年 公立穴栗総合病院 外科医長
平成20年 公立穴栗総合病院 外科部長
令和4年 神戸百年記念病院 外科

資格 日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器がん外科治療認定医
日本腹部救急医学会認定医
難病指定医
マンモグラフィー読影認定医
インフェクションコントロールドクター
日本スポーツ協会公認スポーツドクター



精神科、認知症疾患医療センター

井上 和洋 (いのうえ かずひろ)

略歴 平成19年 神戸大学医学部医学科卒業
平成19年 愛仁会高槻病院 初期臨床研修医
平成21年 京都府立洛南病院 精神科
平成25年 東京都立多摩総合医療センター精神科
平成26年 京都府立洛南病院 精神科
平成28年 稲門会いわくら病院 精神科
平成29年 大阪赤十字病院 精神神経科医師
令和3年 療道教会西山病院 精神科
令和4年 神戸百年記念病院 精神科

資格 精神保健指定医
日本精神神経学会精神科専門医・指導医
日本認知症学会専門医・指導医
認知症サポート医
緩和ケア研修会修了



耳鼻咽喉科

前田 英美 (まえだ えみ)

略歴 平成20年 兵庫医科大学卒業
平成20年 大阪市立大学医学部附属病院 臨床研修医
平成22年 兵庫医科大学耳鼻咽喉科レジデント
平成23年 大阪厚生年金病院耳鼻咽喉科レジデント
平成24年 大阪船員保険病院 耳鼻咽喉科
平成26年 兵庫医科大学耳鼻咽喉科
大学院生・非常勤医師
平成27年 兵庫医科大学病院耳鼻咽喉科
平成29年 兵庫医科大学耳鼻咽喉科
大学院博士課程修了学位取得

平成29年 大阪みなど中央病院耳鼻咽喉科
令和4年 神戸百年記念病院 耳鼻咽喉科

資格 日本耳鼻咽喉科学会専門医

耳鼻咽喉科専門研修指導医

医学博士

補聴器相談医



外科

西原 弘貴 (にしはら ひろたか)

略歴 平成30年 埼玉医科大学医学部医学科卒業
平成30年 埼玉医科大学総合医療センター
初期研修医
令和2年 兵庫医科大学病院 外科専攻医
令和3年 独立行政法人国立病院機構大阪
医療センター 外科専攻医
令和4年 神戸百年記念病院 外科専攻医



循環器内科

西出 征司 (にしう せいじ)

略歴 平成24年 帝京大学医学部医学科卒業
平成24年 帝京大学医学部附属病院初期臨床研修医
平成30年 帝京大学医学部臨床大学院卒業
平成30年 帝京大学医学部附属溝口病院助教
令和4年 神戸百年記念病院 循環器内科

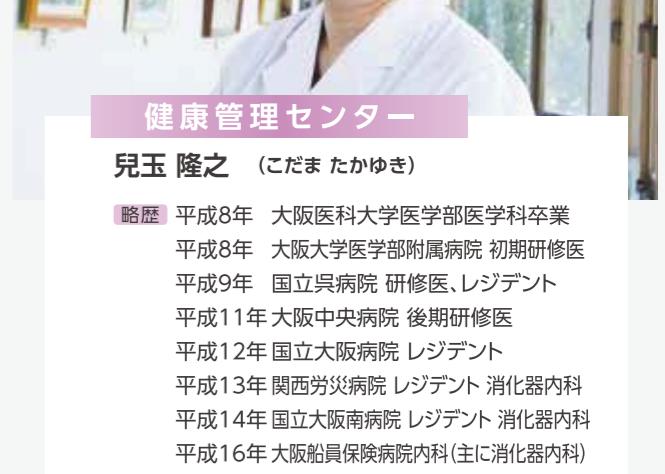
資格 日本内科学会内科認定医
日本循環器学会循環器専門医
医学博士
臨床研修指導医



耳鼻咽喉科

奥村 智司 (おくむら さとし)

略歴 令和元年 兵庫医科大学医学部医学科卒業
令和元年 兵庫医科大学病院 臨床研修医
令和3年 兵庫医科大学病院耳鼻咽喉科・
頭頸部外科
令和4年 神戸百年記念病院 耳鼻咽喉科



健康管理センター

兒玉 隆之 (こだま たかゆき)

略歴 平成8年 大阪医科大学医学部医学科卒業
平成8年 大阪大学医学部附属病院 初期研修医
平成9年 国立吳病院 研修医、レジデント
平成11年 大阪中央病院 後期研修医
平成12年 国立大阪病院 レジデント
平成13年 関西労災病院 レジデント 消化器内科
平成14年 国立大阪南病院 レジデント 消化器内科
平成16年 大阪船員保険病院内科(主に消化器内科)
平成18年 西宮市立中央病院(主に消化器内科)
平成20年 上ヶ原病院 内科全般
平成26年 大阪中央病院 消化器内科
平成28年 はくほう会セントラル病院 内科
平成30年 桜十字大阪クリニック(院長)健診部門
令和2年 中井医院一般診療
令和3年 よどがわ内科クリニック(一般診療、施設訪問)
令和3年 神鋼記念病院健診部門

資格 日本医師会認定産業医